感染症発生動向調査委員会報告　4月

≪今月のトピックス≫

- **風しんが非常に流行しています。**
- **マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。**

全数把握疾患

4月期に報告された全数把握疾患

パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	1件
急性脳炎	1件	風しん	66件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件		

＜パラチフス＞

1件の報告がありました。感染経路感染地域等不明です。

＜E型肝炎＞

60 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。E 型肝炎の報告で国内感染が推定されたのは、市内では本件が初めてです。1999 年 4 月から 2008 年第 26 週までのE型肝炎の報告のうち、推定感染地域が国内とされている 218 例中、111 例に生肉や内臓の喫食が関連していたとのことです。肉や内臓については、中心部までよく加熱して食べましょう。E型肝炎となった場合の致死率は、一般の人々では 0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では 17-33%と高く、注意が必要です。

◆E 型肝炎とは(国立感染症研究所 H.P.) http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html

◆E 型肝炎について(横浜市衛生研究所 H.P.) http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html

＜アメーバ赤痢＞

腸管外アメーバ症(感染経路・感染地域等不明)1件、腸管アメーバ症(日本国内での性的接触による感染が推定)1件の報告がありました。

＜急性脳炎＞

幼児の報告が1件ありました。接触感染が推定され、病原体として便検体からロタウイルス(遺伝子型G1P8)が検出されています。下痢、嘔吐が3日間続いた後、小脳失調や意識障害が出現しました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

AIDSが2件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。全て国内での感染が推定されています。無症状病原体保有者の1件は異性間性的接触、その他の3件は同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞

2013年4月1日より届出疾患となりました。70歳代男性1件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについてはa～f型までの6種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞

2013年4月1日より届出疾患となりました。6件の報告があり、いずれも血液から菌が検出されています。それぞれの症例は、①90歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は全身倦怠感で、胆管炎からの感染が推定されています。血清型11型②70歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と呼吸困難。血清型不明③50歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱。血清型22型④0歳(生後6ヶ月～12か月)女児。ワクチン接種歴3回(7価結合型)有り。症状は肺炎。血清型19型⑤80歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、全身倦怠感。血清型7型⑥80歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は肺炎。血清型検査中)の報告がありました。予防にはワクチン接種が重要です。

＜梅毒＞　1件の晩期顕症梅毒の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞

66件（男性55件、女性11件）の報告がありました。5件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんの流行は昨年6月から継続し、今年に入り報告数が大幅に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4月22日から予防接種の助成が始まりました。

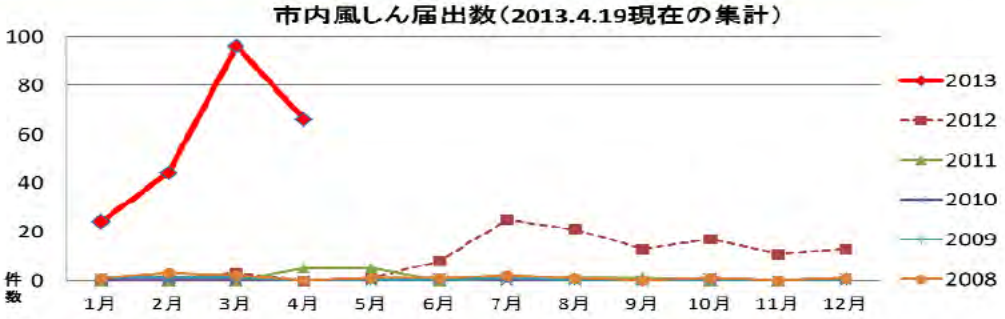
※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf

◆横浜市感染症臨時情報：http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細（横浜市保健所：緊急風しん対策について）

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html



定点把握疾患

平成25年3月25日から平成25年4月21日まで（平成25年第13週から平成25年第16週まで。ただし、性感染症については平成25年3月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年　週－月日対照表

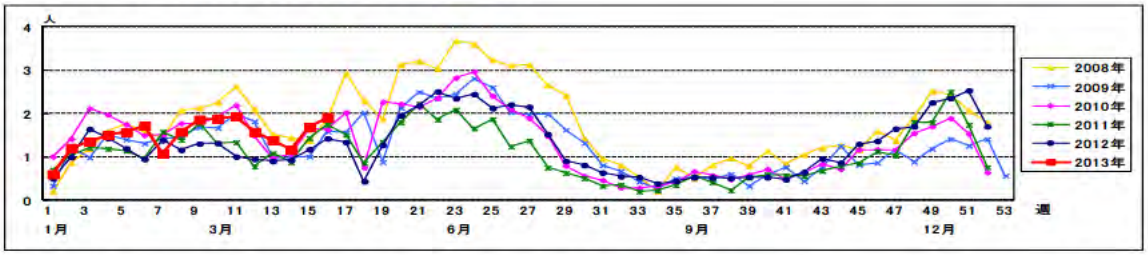
第13週	3月25日～ 3月31日
第14週	4月 1日～ 4月 7日
第15週	4月 8日～ 4月14日
第16週	4月15日～ 4月21日

1　患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞　第16週は市全体で定点あたり1.92と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値8.00を大きく下回っています。



＜性感染症＞　3月は、性器クラミジア感染症は男性が14件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が3件でした。

＜基幹定点週報＞　全国では**マイコプラズマ肺炎**が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第13週0.48、第14週0.42、第15週0.46、第16週0.52と落ち着いてきています。横浜市でも第13週0.33、第14週0.50、第15週1.00、第16週1.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、全国より多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞　3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件(鼻咽頭ぬぐい液44件、ふん便吐物6件)、内科定点1件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点4件(眼脂)、基幹定点5件(髄液5件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎25人、下気道炎16人、胃腸炎6人、インフルエンザ3人、内科定点はインフルエンザ1人、眼科定点は流行性角膜炎4人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、熱性けいれん2人でした。

5月8日現在、小児科定点のインフルエンザ患者2人と上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、上気道炎患者3人からアデノウイルス(3型、4型、型未同定)、胃腸炎患者1人からパレコウイルス1型、内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の下気道炎患者6人と上気道炎患者2人からライノウイルス、下気道炎患者5人と上気道炎患者2人からヒトメタニューモウイルス、上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からアデノウイルス、上・下気道炎患者各1人からパラインフルエンザ、上気道炎患者各1人からヒトコロナウイルスとヒトボカウイルス、胃腸炎患者1人からノロウイルス、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人からアデノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、定点以外の医療機関等からは3件あり、腸管病原性大腸菌(O166:H18,*eae*+)、サルモネラ(*S.*Kottbus)が検出されました。

その他の感染症の検体受付は小児科定点から8件で、A群溶血性レンサ球菌が5件、B群溶血性レンサ球菌が1件検出され、基幹定点からは肺炎球菌が1件検出されました。

(次ページに表)

表　感染症発生動向調査における病原体検査（4月）

感染性胃腸炎

検査年月	4月			2013年1月～4月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	1	8	3	2	43	8
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管病原性大腸菌		1			1	
腸管出血性大腸菌						4
チフス菌					3	
サルモネラ	1			1	16	
不検出	0	7	3	1	22	4

その他の感染症

検査年月		4月			2013年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		8	1	69	26	15	82
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1				1	1	
	T2	1			3		
	T6				2		
	T4	2			6		
	T12	1			1		
	T25	1			1		
	T28				2		
	T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌		1			1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						6	
バンコマイシン耐性腸球菌						1	
インフルエンザ菌					1		1
肺炎球菌			1		1	3	
Neisseria meningitidis							2
黄色ブドウ球菌					2	4	
結核菌							10
G群溶血性レンサ球菌				1			1
緑膿菌				63			63
不検出		2	0	5	3	0	5

＊：定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】